

R 5年度 自己評価・学校関係者公表シート

学校法人徳野学園 とくの幼稚園

1, 本園の教育目標

体育* 基本的な生活習慣を身につけ、健康で明るい生活が出来る体力を育てたい

情操* 物事に感動する心や自然や動植物に興味や愛情を持つ豊かな人間性を育てたい

協調* 自分で学び、考え行動する力と自己を律しつつ他人と協力出来る社会性を育てたい

上記の 3 本を柱に、教師との信頼関係に支えられた中、友だちと充分に関わり一人ひとりが充実した園生活を展開していくよう配慮をした幼児教育を目指している。

2, 本年度、重点的に取り組む目標・計画

認定こども園の意向に伴い、教育的意味合いと保育を目的とした活動の中で、それぞれの良さを認め、研修を通し学びを深める。また自園の環境構成、子どもの成長に合わせたものとなっているかを、検証していく。また、2歳児の受け入れによる、異年齢での子どもたちのかかわりを大切に、情緒面での発達を意識し、全体行事のあり方を常に教師がそれぞれの考えをもつ中で、よりよいものへ整えていく。

特別支援教育においては、様々なニーズの中、引き続き一人一人に合わせた支援体制を再確認し、保護者の思いを受け止めながら市や療育機関と連携を取り幼小連携をスムーズに行う。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
いろいろな分野での研修参加ができ、学びが深まった	研修の形にこだわらず、参加できたことで保育者の意識が高まり、知識を得るとともに、話し合いが活発になり、目的に向かう中でより良い方向性を求め意見を交わしながら実践出来た。
子どもの年齢に合わせた環境構成の構築	2歳児保育の中では安心して過ごせる環境づくりを常に意識し、生活の中での発達を常に子どもの様子を捉えながら変化を持たせることができた。 また保護者とのやり取りも保育者が連携を行い十分に伝え発達を促すことが出来た。
特別支援教育と幼小連携	就学に向けて、各学校の特別支援の内容を伝え、連携を行った。 また市との特別支援の流れの理解が深まり保護者が安心して進められるように常に資料を活かしながら情報交換を行い途切れない支援を心がけた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

研修のあり方を保育者が意識し、自分に足りないと感じるものや、偏った研修にならないように分野ごとの研修を見えるようにまとめたことで、研修に課題を持って参加し、バランス良く学び知識が増えた。また家庭との連携の中で、知識を生かした話を行い子どもの成長に多角的に関わりが持てた。

保護者が園内やお部屋に入ることが多くなり、直接環境や、保育者の関わり方を見てもらい、工夫していることが理解され、お便り発信と連動しながら、子どもの育ちを伝え伸びを感じられた。

5、今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成のさらなる発展	外遊びの環境の充実を教師全体で、見直し白山市の自然を生かし、園外にも目を向ける。また園内では興味ある園庭やグラウンドづくりを目指し、家庭との連携の中で、生きる力の基礎となる力を遊びを通して育てる。
家庭支援	子どもに向き合える保護者支援を具体的で且つ各家庭に合わせた内容を考え発信する。 預かり保育の人数の増加とともに、多くの目で子供たちを見守りながら遊びが充実出来る体制を整える。 家庭でも出来る遊びの発信。
安全管理	子供の姿を捉えて上で、運動遊具を生かした遊びを多く提供し、できる結果にこだわらずプロセスを大切に。また正しい使用方法と危険な使用法の違いを伝え環境設定も考え直していく。 災害に関する避難訓練の予測を今一度見直し、命の大切さを感じ守るための工夫をする。

6、学校関係者の評価

少子化に伴い、園児数減少要因や、未就学児と地域へ向けた園開放を工夫し幼児教育の良さを発信し、良好な運営状態をつくる。

7、財務状況

公認会計士による監査にて、適正に運営されていると認められている。